となり廣東、青島、福州等に於ける邦人殺害事件、帝國官吏侮辱事件等を惹起したるのみならず、一月九日「民國日報」紙は我が皇室に對する大逆事件に關して、「不幸にして爆彈命中せず」云々の不敬記事を掲載するに至つた。

就中上海に於ては抗日會本部其他各種排日團體の跳梁は最も甚しく、一月十八日支那義勇團員が、日蓮宗僧侶を傷害致死せしめたる事件は、在留邦人を極度に憤激せしめ、日支の感情は著しく尖鋭化するに至つた。そこで帝國上海總領事は同地方支那官憲に對し、排日運動の取締其他に關し公正妥當なる要求を呈出したが、支那側は往昔回答を遷延する一方、上海の周圍に軍隊を集中して我が方を威嚇するが如き態度を示したので、居留邦人をして極度の危虞を抱かしむるに至つた。

二、誘　因

一月十八日午後四時頃、上海江灣路妙法寺(日蓮宗)僧侶二名は信者三名と共に托鉢のため引翔港街路を通行中、同所支那人經營の「タオル」製造業三友實業會社前に於て、同會

0006

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

社の職工及職工にて組織せる義勇隊員のため、不法にも「日本人を倒せ」との罵詈の下に暴行を受け、支那警察官の目前にて(警察官は傍觀して制止せず)、何れも全治迄に二週間乃至一箇月を要する重傷を受けた(一名は二十四日死亡)。之を聽きたる上海居留邦人は重ね重ねの支那側の暴戾に憤激し、居留民代表會議を開き、居留民保護のためには我が實力を以てするの外なしとし、直接上海市長に嚴重なる抗議をなすと共に、上海の我が官憲に對し强硬なる意見上申をなした。

然るに居留民の一部は斯くの如き處置は手緩しとし。十九日夜半(二十日午前二時半頃)光村芳藏氏を會長とする上海青年同志會員三十二名は、前記三友實業會社を襲撃し社宅一棟に放火半燒せしめ、同所の支那巡捕と格闘し、其二名を倒し二名に重傷を負はしめたが、邦人側に於ても亦彼等の射撃に遭ひ、會員一名射殺せられ二名の負傷者を生ずるに至つた。

之に於て我が居留民は益々激昂し、二十日居留民大會を開きて協議し、海軍を以てする

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp